

「隊員の命オモチャにするな」

南スーダン 即時撤収を

「隊員にリスク与える南スーダンからの即時撤収を」。次期南スーダン国連PKO派遣部隊に予定されている陸上自衛隊北部方面隊の第5旅団司令部（北海道帯広市）に、「専守防衛の本来任務」に徹するようにとの思いを込めた請願行動に取り組んでいる元自衛官がいます。（山本真直）

陸自に請願書出した 元自衛官の思い



陸上自衛隊第5旅団司令部へ「南スーダンPKOからの撤収」を請願する元自衛官の末延隆成さん＝2月22日、北海道帯広市

末延さんの姿を見て、かけつけた警備担当の隊員に思いを伝えました。

「現地の状況を伝えている『日報』には戦闘と書かれており、明らかにPKO5原則のひとつ、停戦合意が崩壊している。隊員の命を守りたい。自衛隊は撤収させるべきだ」

警備隊員は「そのフラカードは請願書とは言えない。受け取れない」と、立ち去るよう言ってきました。

末延さんは「これには、旅団長と宛名もあり自分の氏名には押印もしてあり立派な請願書だ」と訴えました。末延さんの毅然とした態度に、第5旅団司令部の沢田泰弘総務部長（3佐）が応対し、「（請願書は）封筒に入れて出してほしい」と語りました。

末延さんは裏打ちしてある段ボールから模造紙をはがして、持参した封筒に入れ、旅団長に必ず手交してほしい」と手渡ししました。沢田部長は「必ず届け」と約束しました。

南スーダンからの撤収を訴えているのは2年前まで同旅団の鹿追駐屯地で、戦車大隊の弾薬補給陸曹だった末延隆成元2等陸曹（55）。

として5月にも派兵されま

0枚、縦50センチ、横50センチ、縦90センチの2枚の模造紙でアピールしました。

し、司令部のある駐屯地前に書き込まれた「特製」。

（14面につづく）

隊員・家族の不安伝えたい



第5旅団司令部に「南スーダンPKO撤収を」と要請する未延元陸曹の支援に駆けつけた帯広平和委員会などの人たち

南スーダン撤収を 請願行動の元自衛官

1面のつづき

未延さんが上級司令部に対し、「南スーダンからの撤収」を迫る理由の一つに昨年5月に起きた地元、然別(しかりべつ)演習場(鹿追町)での実弾誤射事件の記憶があります。

事件では、輸送隊が、車列を襲撃から守る訓練中に空包を使うはずが間違えて実弾79発を撃ち、銃口の器具が破損し、2人の隊員が負傷しました。

は、安保関連法など海外での武力行使に向けて訓練が実戦的になり、南スーダンPKOについて「駆け付け警護」「宿営地共同防護」と明らかに憲法の禁じる海外での武力行使にまで来ている」と危機感を募らせます。30代の現役隊員からこう訴えられたといいますが、「俺が南スーダンで死んだら、残された家族はどうなるだろう。経済的に困らないだろうか。子どもは学校で『おまえのおやじはバカなことを外国にやりにいって殺された、とか言われてイジメられないだろうか』駐屯地前のショッピングセンターで聞いた、隊

員や家族の痛切な思いがこめられています。この日の司令部要請行動には帯広平和委員会などの市民も支援に駆け付けました。未延さんは、力を込めました。

「南スーダンからの撤収をどうしても実現させたい。隊員や家族の不安な思いをどうしたら旅団長や幕僚長などの幹部に伝えられるか、と考え、請願書なら受け取り拒否できないはずと気が付いた。市民にも訴えるつもりだ」

武力行使の訓練に危機感

未延さんは「自衛隊グセスターで聞いた、隊